

事例6

安衛管理徹底大会、とび特化教育で 不安全行動による災害を撲滅

加濃建設株式会社は、墜落災害絶滅のため、W安全帯の完全使用の徹底に努める。また、とび職に特化した教育や、職長認定制度で職長のレベルアップを図る。さらに、作業の大小に関係なく、現場では職長に作業計画と作業手順書の作成を徹底している。

加濃建設株式会社・東京都

同社は、とび工事業を専門とする専門工事会社である。

同社は協力会社と「大成建設株式会社安全衛生環境協力会連合会」（以下、「連合会」）を組織して安全衛生に取り組んでいるが、連合会としての取組みに加え、職種に特化した教育や、作業手順書の整備による安全対策にも力を入れ、労働災害の撲滅に努めている。

W安全帯の使用で重篤災害を予防

同社の安全衛生管理の基本方針は、「墜落災害の絶滅（W安全帯の完全使用）」と、「安全施工機能の充実（指揮命令系統等の確立）」の2つ。W安全帯とは、高所作業のときに命綱を2丁掛けで使用すること。この基本方針の下、次のような5項目を重点事項として定め、周知徹底、効果的な実施、実行状況の確認を励行している。

- ① 作業する場所、安全第一主義の徹底（安全確認・指差し呼称の実施）
- ② 第三者災害の防止
- ③ 安全意識の向上と健康管理
- ④ 施工班リーダー（職長、職長補）の安定的定着
- ⑤ 安心・安全・信頼の増進

また、基本方針の1つである墜落災害の絶滅のため、「2m以上の作業においては、親綱を張り、W安全帯を必ず使用して、墜落災害を起こさない!!」という安全スローガンを掲げ、周知徹底を図っている。2m以上の高所作業については、法令で墜落などの危険を防止するための措置が義務づけられているが、W安全帯を使うのは、さらにフックを掛け



鉄骨建方風景



タワークレーンの組立て



現場(G)で作る作業手順書(T)
GTは小さな作業でも油断せず、
確実に安全対策を講ずるためのもの



災害絶滅を期す
安全衛生管理
徹底大会の様様

替える際のリスクをなくすためである。

W安全帯使用の効用について、工事部の安全主任兼工事主任は、「他職ですと、周囲に手すりなどの安全施設がある状態で仕事ができます。とびの場合は、開口部がある場所などに、危険を冒して、その手すりを架けに行くわけです。命綱が2本あれば、移動するときに先の方へ1本掛けてから、後ろの1本を外すというふうに、常に1本はどこかしらに掛かっている状態になります。万一、足を踏み外したとしても、大ケガや死亡災害は絶対に発生しません」と力説する。同社では、W安全帯を着用していない作業員は、職長が退場させるルールとなっている。

とび職に特化した教育でレベルアップ図る

同社の安全衛生教育の柱は、職長・作業主任者研修である。

職長・作業主任者研修会は、春季と秋季の年2回実施。「法定の職長教育などは、とびに限らず、大工でも鉄筋でも共通のものです。当社ではさらに、危険な作業が一番多いとび

に特化した安全・施工管理の教育を実施し、レベルアップを図っています」と社長。

この研修会と併せて、職長認定制度も整備している。法定の職長教育を修了した者の中から、さらに同社の基準に達した者を、評価委員会で審査し、職長として適格であると社長が認定する制度である。各現場の職長には、その認定者を任命している。

大と小の作業計画、作業手順書を整備

同社の安全管理では、作業計画・要領書も大きな役割を担っている。「現場では、大小さまざまな作業があります。大きい作業に関しては、社員と職長が打ち合わせをして、A1サイズの用紙に作業計画・要領書を作成し、作業員全員に周知徹底しています」と社長。

「ワンシート」と呼ばれているそのA1サイズの作業計画・要領書には、「現場のクレーン、リフト、足場、材料置き場、親綱・命綱使用場所などの配置図、クレーン、リフトの能力の検証結果、日程などを網羅して、作業の全体が分かるようにしています」（安全主任）。これは、重点危険作業となっている鉄骨の組立て・解体作業、足場・荷取りステージの組立て・解体作業（高さ5m以上）などを安全・確実に実施するため作成しているものである。

また、平成23年から、新たな取組みも開始した。「日々発生する小さな作業についても、作業手順を確立させて安全対策を講ずるよう、職長が現場で作成する作業手順書のフォーマットを考案しました。これは小さな作業に対する安全を確保するためのものです」（社長）。

日々発生する小さな作業の手順書は、「現場（G）で作る作業手順書（T）」というA3サイズのもので、略して「GT」と呼んでいる。また、現地KYにおいては、ペア制度を確実に実行している。

「大きな作業は、作業員みんなが熟知し、注意して臨みますが、小さな作業はとかく配慮や注意が薄れがちです。しかし、小さな作業でも災害が発生すれば大変なことになります。GTは、小さな作業でも油断せず、確実に安全対策を講ずるためのものです」（常務）。

危険の芽を徹底して摘み取るため、職長が作業手順、作業の要点、予想される災害、安全対策、安全のポイントや作業概略図などを記入して、担当する作業員の注意を喚起している。